



静大発ベンチャーが学生ボランティアによる被災地支援を開始

防災教育に取り組む大学発ベンチャーBOSAI Edulabが、新たな事業として「ユース災害ボランティア基金」を立ち上げ、能登半島地震被災地や山形県酒田市の豪雨災害地に学生ボランティアを送り出しています。
この基金は、金銭面での負担が大きくボランティアへの参加が難しい学生を支援するもので、寄附を企業等から募り、現地への旅費や研修動画の製作に充てています。
2024年7月～11月にかけて、静大をはじめ全国各地の学生たちのべ350名が、事前のオンライン研修を受け災害ボランティア活動に参加しました。学生たちは日程ごとにチーム編成され、基金事務局スタッフとともに、家屋の片付け、家財の搬出、児童への学習支援、ボランティアセンターの清掃など、復興支援の活動を行いました。

小学生対象の「ロボット講座」開催
将来のものづくり人材を育む

工学部では、地域のICT教育や理科教育支援を目的に、浜松市内の小学生を対象に「ロボット講座」を開催しています。2024年度は飯田小学校、豊岡小学校、広沢小学校を対象に行いました。
プログラミングを通じて実際にロボットを操作する体験型講座で、児童たちは試行錯誤を重ねてロボットに音楽を演奏させたり、自分の考えた通りに動かしたりする体験を行いました。



総合科学技術研究科情報学専攻が
入学定員を25名増やして新コースを設置

2025年4月、総合科学技術研究科情報学専攻(修士課程)は、入学定員を25名増員して「基盤情報学コース」(定員50名)と「領域情報学コース」(定員35名)の2コースを新設します。
また、自然科学系教育部情報科学専攻(博士後期課程)では、定員を2名増員し13名に、2027年度には更に3名増員し16名とする予定です。
この拡充は、文部科学省「大学・高専機能強化支援事業(高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援)」の採択を受け実施するものです。



静岡大学は、地域経済界のニーズに応える高度デジタル人材の養成に貢献していきます

静岡大学未来創成基金

学生支援、研究・教育活動、国際交流の充実、環境整備を支援するために設置されました。卒業生や地域の皆様より多大なご支援を賜り、幅広い活動に活用させていただいています。



教育学部附属浜松小・中学校
最先端の調理設備を導入



教育学部附属幼稚園
「うきうきつりー」新設



自費のみでの海外留学が
困難な学生への奨学金支援

\\ 温かいご支援ありがとうございます /



ご寄附はこちらから
ご寄附をいただいた皆様のご芳名をウェブサイトに掲載しています

静岡大学未来創成基金ウェブサイト
<https://kikin.adb.shizuoka.ac.jp>

静岡大学広報・基金課基金係 TEL:054-238-5183 E-mail:kikin@adb.shizuoka.ac.jp
未来創成基金へのご寄附は、郵便振替やインターネットからお申込みいただけます。

//////////////////////////////////// アンケートにご協力ください //////////////////////////////////////

静岡大学広報誌「SUCCESS」vol.33の誌面に関するWEBアンケートにご協力ください。前号プレゼントとして好評のA6オリジナルノート1冊を抽選で10名様にプレゼント! 当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。



※絵柄は
選べません



左記二次元コードから
アクセスいただき、
WEBにてご回答ください。
応募締切:2025年6月30日(月)

編集後記

今号では、学生たちの大きな活躍を紹介することができました。プロ野球ドラフト指名や吹奏楽団の全日本吹奏楽コンクール金賞などのうれしいニュースは、読んだ方も明るい気持ちになられたのではないのでしょうか? 学業や課外活動、さまざまなことに一生懸命取り組む学生たちを引き続き応援していきます。



SUCCESS

静岡大学広報誌 サクセス

Shizuoka University
Current affairs &
Connective paper for
Every graduate
Student &
Staff

特集

学長インタビュー

節目の年を迎えて～過去、現在そして未来へ～

/カーボンニュートラル、ただいま推進中!



33

Spring 2025

吹奏楽団が全日本吹奏楽コンクール金賞受賞関連記事は10ページ



節目の年を迎えて、過去、現在そして未来へ



日誌 一幸 Hizume Kazuyuki
 1955年長野県生まれ 専門分野は行政学
 1991年3月 名古屋大学大学院法学研究科 博士後期課程 中途退学
 1991年4月 名古屋音楽大学専任講師
 1996年4月 静岡大学人文学部助教授
 2000年4月 同 人文学部教授
 2017年4月 同 人文社会科学部長
 2021年4月 同 学長
 2025年4月 同 学長(再任)

静岡大学は、新制国立大学の一つとして1949年に創設され、昨年(2024年)75周年を迎えました。創設にあたっては、全県下で静岡大学を支援する取り組みがなされ、全県民の期待を背負って誕生しました。まさに、「オール静岡」の支援と協力が過去と現在の静岡大学の教育研究活動の原点であり、今まで、文系・理系学部を有する総合大学として、静岡県内はもとより、日本においても確固とした地歩を築いてきました。

私の2期目の開始となる2025年は、静岡大学の創基とも言うべき静岡師範学校の設立から150年を迎えるとともに、新制大学で唯一の理工系附置研究所である電子工学研究所を設置して60周年、そして今日の高度情報化社会を先取りした

取り組みと言える情報学部の設置から30周年を迎えます。さらに、2026年は、テレビジョン技術の開発により社会(産業界)に絶大な貢献をされた高柳健次郎先生(本学の前身の浜松高等工業学校助教授(当時)、本学名誉博士)が世界で初めて「イ」の字の受像に成功して100年となります。

静岡大学は、長い歴史と伝統を誇りに、これからも一貫して静岡県における中核大学としてその使命と役割を發揮していくことで、未来へ進んでいきます。

国立大学法人静岡大学学長
 日誌 一幸

静岡大学のポテンシャルを活かす

～未来創成ビジョンに基づく「攻めの改革」～

これからの静岡大学は、明確なビジョンのもと、教育・研究両面での発展を目指し、これまでの対話と熟慮から「攻めの改革」にシフトチェンジしていきます。

主な取り組みとして、研究面では「世界を先導する研究拠点の構築」と、「研究力を高める体制の強化」を通じて先端研究を推進し、世界最先端の研究成果の創出を目指します。教育面では、「総合知」と「専門知」を有機的に結合させる教育体制の構築や「静岡大学のグローバル化の一層の推進」、さらには「社会連携・地域貢献・地域で活躍できる人材育成」を通して本学における総合的教育体制を整備し、地域に貢献する人材の輩出を目指します。加えて、「財務・経営基盤強化ならびに管理運営効率化」、「教職員の働きやすい環境整備な

らびにダイバーシティの推進」、「高等教育機関等との連携強化」といった取り組みにより、強固な経営・運営基盤を構築します。

これらの取り組みを通じて、「未来創成ビジョン」で示した9つの目標の実現を目指し、キャンパスのある県中部、県西部だけではなく県東部にも教育・研究・地域貢献活動を展開していくことで、県全域における共創の取り組みにより「オール静大」でポストSDGsを見据えた地域課題解決に取り組み、世界に展開します。



静岡大学の将来 ～「リセット」と「一体感」によるリニューアル～

少子高齢化や人口減少、環境問題などさまざまな社会課題が複雑多様化し、先行きを見通すことが難しい時代である今、静岡大学には、物事の本質を読み解き、さらに科学技術の進歩と発展に一層の貢献をする「知と人材の拠点」として、地域社会から更なる期待が寄せられています。

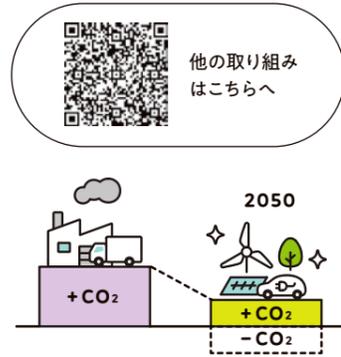
静岡大学は、今後も地域社会から期待される役割を果たすため、多様性を重視し(多)、柔軟性をもって社会の動きに対応し(柔)、創造性を發揮して新たな改革の取り組みを推進していく必要があります(創)。

私は、2025年をリセットの年と位置づけ、「自由啓発・未来創成」(2008年策定)の基本理念を継承・発展させるとともに、「多・柔・創」を重視した大学運営・経営を心掛け、未来を切り拓く教育研究を進めるために、一体感を損なうことなく、教職員が一丸となって静岡大学を力強く前進させていきます。

これまで総合大学として培ってきた教育研究成果を一層充実・発展させ、現状を変革して強い大学を築き上げることで、つまり、世界水準の大学をつくること、それが2期目となる私の目指す静岡大学の姿です。



静岡大学では、地域社会との連携窓口となるカーボンニュートラル推進本部を2024年7月に設置し、8月にカーボンニュートラル宣言、アクションプランの策定を行い、「キャンパス」「研究・イノベーション」「教育・人材育成」「社会連携」の4領域で推進しています。



カーボンニュートラルとは
温室効果ガスの **排出量 - 吸収量 = ゼロ**

温室効果ガス(二酸化炭素のみではなくメタン、一酸化二窒素、フロンガスを含む)の排出量から吸収量を差し引いた合計を差し引きゼロ(ニュートラル、中立)にすること。日本政府は、2050年までに目指すことを、2020年10月に宣言しました。

全学部生を対象に2025年4月スタート!

特別教育プログラム

地域を、そして世界をリードする人材を育成!

カーボンニュートラルは、企業だけでなく、そこで働く人や、一般の消費者など、みんなが意識して取り組まなければならないテーマ。文系、理系問わず、全ての学生が知識を持って、卒業後社会で、それぞれの立場で、どう取り組むべきなのか、どうい社会を目指すのかを考えることができるよう、このプログラムを設立しました。

特別教育プログラムは、自分の専攻(主専攻)以外に興味がある特定の分野を履修できる制度です。所定の単位を修得するとオープンバッジ(学習歴のデジタル証明)が付与されます。

必修4単位	+	選択8単位以上
<ul style="list-style-type: none"> 1 カーボンニュートラル入門(2単位) 2 カーボンニュートラル科学(2単位) 		<ul style="list-style-type: none"> 3 フィールドワークの選択も可能

大学院でも実施中!カーボンニュートラル推進人材育成プログラム
修士課程の情報学・理学・工学・農学の各専攻の専門性と幅広い知識を合わせ持つ高度な専門人材を養成しています。

1 カーボンニュートラル入門

基本を知る

これから社会に出ていくすべての学生に必要な学び。自然科学だけでなく、人文科学、社会科学など、多彩な専門分野の教員がそれぞれの観点から話すほか、自治体・金融機関など外部講師による授業もあります。普段身近に感じていないかもしれない文系の学生も、自分の専門も関係していることを知り、自分事として考えるきっかけとしてもらいたいと思っています。

グローバル共創科学部 / 板倉 美奈子 教授



プログラム全体の設計を担当。学部横断で専門が異なる教員による議論を重ねて準備をしてきました。

2 カーボンニュートラル科学

最先端の研究に触れる

再生可能エネルギーの利用、熱循環の基礎、バイオ燃料の利用など、科学的見地から理解を深め、社会制度の知識を獲得することで、脱炭素・循環型社会の実現に向けて必要な学びを深めることができます。専門分野の異なる5名の最先端の研究者の講義をじっくり受講することができます。

グローバル共創科学部 / 水谷 洋一 教授



令和6年度はグローバル共創科学部の授業でしたが、令和7年度からは本プログラムで全学部生が受講できるようになりました。

3 カーボンニュートラル・フィールドワーク

現場を知る、専門分野を深める

さまざまな分野の教員らと静岡県内の自治体、企業、大学などを訪れ、現場の実践的な取り組みを学びます。複数のプログラムから前期・後期2つを選び、学部・キャンパスの枠を超えて、多様な専門の学生らと交流しながら自身の専門分野をさらに深めます。

情報学部 / グリーン科学技術研究所 / 峰野 博史 教授



環境問題の解決だけでなく、利益を地域に還元し、地域創生に力を入れることで環境活動自体も持続可能になると感じた。



浜松・浜名湖太陽光発電所の見学
(環境省「令和4年度教育機関と連携した地域再生エネ導入促進及び地域中核人材育成研修」事業)

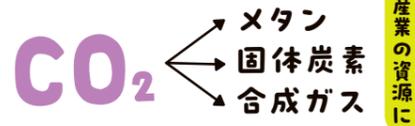
他学部の学生と話し合うことで自分にはない着眼点を知ることができ、自分の興味が広がっていく経験ができた。

静岡市西ヶ谷清掃工場の見学
(2024年度サステナビリティセンター)

研究を社会実装へ!

カーボンニュートラルに寄与する「グリーン科学」や「カーボンニュートラル科学」は、本学が強みを持つ研究分野です。これまでの研究をさらに発展させ、持続的な社会発展と経済成長を両立するグリーン社会モデルの構築へつなげます!多くの研究があり、その一部をご紹介します。

温室効果ガスを炭素資源に変える 福原 長寿 教授(工学部)



室温で二酸化炭素をメタン資源に変えるメタン化技術(オートメタネーション®)を世界で初めて開発しました。さらに、メタンと二酸化炭素から産業原料ガスとなる合成ガスを造りつつ、機能性材料の固体炭素を約60%の効率で製造することに成功しました。COP会議のCO2削減目標に貢献する革新的な技術です。



膜プラスチックに森林を活用 青木 憲治 准教授(グローバル共創科学部)



脱化石資源に向け、材料分野ではセルロースの活用が求められています。自動車、家電製品に社会実装できる「セルロース/樹脂複合材料」の開発により、セルロースを主成分とする木が新たな資源となり、森に新産業を創出できます。産業化により、植林、管理、雇用の良循環の確立を目指します。



温泉メタンで分散型エネルギー生産 木村 浩之 教授(理学部/グリーン科学技術研究所)



静岡県中西部には掘削井による温泉が数多くあり、温泉水と天然ガス(温泉メタン)が湧出します。静岡県内の自治体や企業と連携して、この温泉メタンを活用して都市ガス・熱・電気を供給する分散型エネルギー生産システムを社会実装しました。災害時に防災ステーションとしても利用します。



グリーン科学技術研究所
農学部 応用生命科学科 教授

大西 利幸
OHNISHI Toshiyuki



教員ウェブサイト



「香り」で伝える仕組みを解明 農作物の生産性向上に活用

植物は、育つ場所から動くことができないため、環境に順応する術を身に付け、乾燥・高温や病害虫・病原菌などの環境ストレスと日々闘っています。最近の研究では、香りによって身を守る仕組みを分子レベルで解明しました。昆虫に食べられたトマト株は香り物質を発生しており、近くのトマト株は、それを受け取って酵素の働きで、虫への防御効果がある配糖体という化合物へ変換して害虫に備えます。この仕組みを活用して、農作物に、防御に有効な香り物質を人工的に与えることで害虫に強い形質を持たせ、農業被害の軽減や病害虫駆除の省力化など、農作物の生産性向上が期待されています。

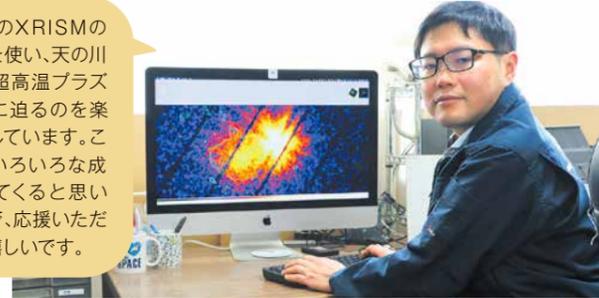
甘い香り、華やかな香りなど、植物は多様な香りを放ちます。私たちが魅了する香りは、実は、植物自身がさまざまなストレスを克服して生き延びるための知恵の1つです。



X線を通して見える宇宙 天の川銀河の謎を解き明かす

宇宙では、物質がさまざまなエネルギー状態で存在しています。星が死ぬときの超新星爆発がつくる高温プラズマなど、高エネルギー状態の物質が放射する光が、X線です。私は、人工衛星でX線を観測し宇宙を研究する「X線天文学」に取り組んでいます。特に、私たちが住む天の川銀河に広がるX線放射は謎が多く、その正体の解明が課題です。2023年に打ち上げられたJAXAのX線分光撮像衛星(XRISM)の開発・運用にかかわり、今後、その観測データも使い、天の川銀河のX線放射の謎に迫ります。また、天文研究の知見を活かした理科教材の開発・教育実践研究も進めています。

JAXAのXRISMのデータを使い、天の川銀河の超高温プラズマの謎に迫るのを楽しみにしています。これからいろいろな成果が出てくると思いますので、応援いただくと嬉しいです。



教育学部 教科教育学専攻 理科教育専修
准教授

内山 秀樹
UCHIYAMA Hideki



教員ウェブサイト

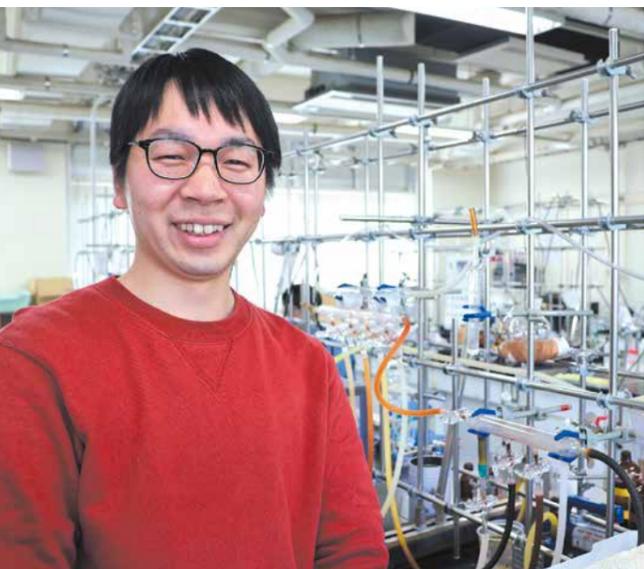


工学部 化学バイオ工学科 准教授

藤本 圭佑
FUJIMOTO Keisuke



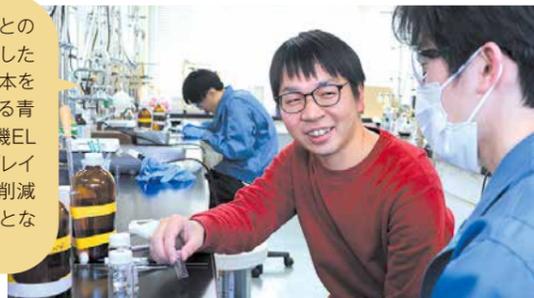
教員ウェブサイト



世界最小電圧で光る青色有機EL 開発に成功し、社会実装へ

有機ELは、テレビやスマートフォンのディスプレイなどに広く実用化されています。しかし、光の三原色の中で最もエネルギーが高い青色の有機ELは、高い駆動電圧を必要とし、消費電力が大きいという課題があります。最近、複数の研究者と共同で、世界最小電圧で発光する青色有機ELの開発に成功しました。この超低電圧発光は、2種類の有機分子を適切に組み合わせることで実現することができ、得意とする有機半導体分子の開発を通じて、その分子探索を行いました。今後、より高効率な発光を達成する新しい材料を探索し、超低電圧青色有機ELの社会実装を目指します。

東京科学大などとの共同研究で開発した乾電池(1.5V)1本をつなぐだけで光る青色有機ELは、有機ELを使ったディスプレイ機器の消費電力削減への大きな一歩となります！



研究 PRESS RELEASE

研究成果を発表して報道されたものをご紹介します
2024年8月~2025年1月



- 藤本圭佑(工学部)「青色有機ELの電子移動を促進する材料選択—超低電圧青色有機EL実用化に向けて—」
- 北村晃寿(防災総合センター/理学部)「静岡県熱海市伊豆山で崩落した盛土の一部は多摩川流域から運ばれた」他1件
- 塩田真吾(教育学部)「子どものリスクマネジメント力育成へ『こころのリスク診断』の共同研究スタート」他1件
- 符 徳勝(工学部)「PZT圧電セラミックスの本質的な圧電性を解明—半世紀以上の未解決課題に光—」
- 呉 偉(工学部)「ART-TRA(株)と『グラフ構造を利用した情報探索システム』の共同研究契約を締結」
- 森田 健(理学部)「10次元空間における膜が量子重力において特別な存在であることを解明」
- 徳元俊伸(創造科学技術大学院/理学部)「プロゲステロン膜受容体(γタイプ)は魚類嗅神経の形成に必須であることを解明」
- 松本和浩(農学部)「リンゴ新品種が農水省に登録される 大型で収穫期の早い『ふじ』の枝替わり『麒麟児』誕生」
- 中村彰彦(農学部)「PETを高効率で分解するケミカルリサイクル技術を開発、廃繊維中のPETも循環可能に」
- 下迫直樹(工学部)「金属ハライドペロブスカイト物質の新たな光学特性を解明」
- 宮崎 真(情報学部)「複数の球種の効果的な打ち分けを可能にする脳の仕組み」他1件
- 峰野博史(情報学部)「ワインブドウの育成測定はAIにお任せ:生成AI 拡張技術を用いた農業DX」
- 後藤寛貴(理学部)「クワガタムシの『カッコよさ』の源を解明するためにクラウドファンディング開始」
- 長尾 遼(農学部)「原始紅藻ガルディエラの光化学系I集光性色素タンパク質複合体の精製と特性解析」他1件
- 藤井基貴(教育学部)「丸石製薬との産学連携に関する共同研究契約を締結『災害時の感染対策』の教育ツールについて」

誰が見てもわかりやすいプログラム設計を目指して



いとう ゆき
伊藤 有紀 さん

情報学部
総合科学技術研究科 情報学専攻
(2021年3月卒)
株式会社システック 勤務
(システムエンジニア)

1995年生まれ、静岡県西遠女子学園高等学校卒
趣味は美味しいもの巡り、料理。
好きな言葉は「日々是好日」。

静大を目指すきっかけは「オープンキャンパス」

中学生の頃から静大主催のイベントに参加していたので、もともと親しみを感じていましたが、入学したいと強く感じたのは、オープンキャンパスでした。自分がまさに研究したいと思っていた、音に関する情報処理技術の研究室があることを知ったからです。

学会発表で身に付けたプレゼンスキルと度胸

入学してから、合唱レッスンでの講師の指導による生徒の歌声の変化を、音声波形で分析し可視化する研究に取り組みました。修士1年時には学会発表も経験し、わかりやすく伝えるスキルや度胸を身に付けることができました。

生協学生委員会の「広報班」として活動

在学中は、生協学生委員会の広報班としても活動していました。メンバーと協力して商品紹介の動画や広報誌を作り上げ、発信していくプロセスがとても面白かったです。会社に入ってから社内報の記事執筆や企画、レイアウトなどを担当していて、その経験が活かれています。



学生時代、学科の友人と熱海旅行で

システムエンジニアとして成長を続けたい

入社2年目に、センサープログラムのテスト(最後の皆とも言われる重要な工程)を担当した際、不具合の流出を防ぎ、

プロジェクトに貢献することができました。今も心に残る経験です。現在、上司や先輩方のサポートをいただきながら業務経験を積む日々ですが、私に後輩や部下ができた際には、メンバーに頼りにされる存在になれるよう、そして、将来はプロジェクトリーダーとなり、チームを引っ張ることができるよう、成長していきたいと思っています。



職場で集中して作業する姿

特別なつながり、得難い時間を楽しもう!

大学は、同じ興味を持つ人が集まり、特別なつながりを築ける場所です。私も気の合う最高の仲間と出会い、卒業後数年経つ今年1回は集まり、学生時代と変わらずさまざまな話をしています。社会人になると自由に使える時間は限られますが、学生時代は、興味を持ったことに思いっきり挑戦できる時間や環境、チャンスがたくさんあります。この貴重な時期を大切に過ごし、勉強やサークル、その他活動に、ぜひ全力で楽しみながら取り組んでください!



若手メンバーと社内イベント打ち上げ

ライフプランナーとしてこれからも挑戦を続ける



さかもと りき
坂本 立樹 さん

人文社会科学部
(2017年3月卒)
プルデンシャル生命保険株式会社
(ライフプランナー) 勤務

1995年生まれ、静岡県立韮山高等学校卒
趣味は料理(YouTubeで勉強中)、アウトドア(キャンプやスノーボード)、バレーボール、メダカの飼育、ポケモンカード。
好きな言葉は「凡事徹底」。

ゼミの熱心な議論で身に付いた対話力

地元の静岡に愛着があったので、静大を選びました。大学では、哲学という、「正義とは何か?」「道徳的に正しいことは法律上も正しいのか?」と法を哲学的に考えるゼミに所属していました。大所帯で個性的なメンバーが集まっていたこともあり、議論が白熱することが多々ありましたが、そんな環境に揉まれた経験が、現在の仕事でお客様の考えを汲んだり、自分の考えをわかりやすく伝えて提案したりする力の土台になっている気がします。



ゼミのメンバーと卒業パーティにて

バレーボールサークルに所属し、バイトも趣味も楽しんだ日々

サークル活動で、週2回はバレーボールの練習で汗をかき、さらにアルバイトでスイミングコーチも週5日していて、自分も練習に参加して水泳大会に出場していたので、非常にアクティブな日々だったと感じます。体を動かした後やゼミの後によくみんなで飲みに行きました。お酒を活用したコミュニケーションのとり方は大学時代に覚えたので、好きなことや大切にしたいことに多くの時間を費やすことができます。



決める瞬間をとらえたバレーボール中の1枚

銀行から転職して、生命保険会社のライフプランナーに

新卒で入った銀行で約5年半勤務し、今の上司との出会いを機に、生命保険会社に転職しました。ライフプランナーは、営業成果で給与が決まるシビアな世界ですが、2年が過ぎ、「担当が坂本だから契約を決めた」と言ってもらえることも増えてきました。お客様から保障をお預かりできたときは、めっちゃくちゃ嬉しいです。生命保険を通じてお客様の課題解決に貢献できるよう、金融や税金、福祉制度などの専門知識をしっかりとアップデートし、お役に立てる方法を本気で考えて、生涯挑戦を続けていきたいと思っています。

学生時代は、楽しんで取り組めることを見つけよう!

在学中は将来やりたいことがなかなか見つからず、楽観的に過ごした私ですが、1つアドバイスするなら、自分が楽しんでできることを見つけてください。スポーツ、サークル、映画・本などの作品にふれる、何でもいいです。大学生は人生で最も制約なく時間の使い方を決められるとき。その時間はきっと将来何かの役に立ちます!



東伊豆町で行われるイベントで司会もやっています



見つけた! 輝く静大生

部活動、研究、地域との連携...静岡大学にはそれぞれの場所で挑戦を続ける学生がたくさんいます。そんな『輝く静大生』を一挙ご紹介いたします。



硬式野球部

安竹 俊喜 選手 広島東洋カープから ドラフト指名!

2024年10月24日、プロ野球ドラフト会議で安竹俊喜選手(人文社会科学部)が広島東洋カープから育成3巡目で指名されました。本学からは3人目のプロ野球選手誕生となります。



安竹 俊喜 (やすたけ としき)

人文社会科学部経済学科

出身高校 静岡県立静岡高校

ポジション 捕手 右投げ右打ち

身長 178 cm 体重 85kg

小学生の頃から意識してきたキャッチング、フレーミング技術と肩の強さが持ち味。

「静大で野球をやりたい」硬式野球部への強い思い

高校3年夏に静大硬式野球部の練習見学会に参加し、ぜひ静大で野球をやりたいと強く思うようになりました。静大の硬式野球部の魅力は、自身の高校での練習スタイルと異なり、全体練習の他は自分たちでメニューから考えてトレーニングや練習をする、自分で何でもできるという自由なところです。



広島東洋カープからの指名挨拶 (写真左: 松本有史スカウト)



野球部のチームメイトからの祝福

たくさん学んで鍛えた静大の4年間

静岡大学に入学し、昨年広島東洋カープにドラフト指名され本学初のプロ野球支配下登録選手として活躍している佐藤啓介さんに出会えたのは、一番大きい出来事でした。佐藤さんの取り組み姿勢などを見て、自分もついでいこうと思い、ここまで来ることができたと感じます。硬式野球部の練習以外にも、身体づくりに力を入れ、自分でメニューを考えながら、ジムでのトレーニングや身体のケアに励んできました。

人文社会科学部経済学科では、特にスポーツマーケティングの授業から学ぶことが多くありました。スポーツ用品を買うのが好きなので、販売する側の考えをより専門的に知ることができ、とてもためになりました。

持ち前の力を活かして一軍選手を目指す

守備の面を評価されて今回育成枠として入団しましたが、一軍の舞台に立つには、総合的に見て一軍レベルに達していないといけません。バッティングをこれからもどんどん鍛え、肩やキャッチングなどの守備もより磨いて総合的に高いレベルのキャッチャーになり、一軍で活躍したいと思っています。

出身や高校・大学も静岡なので、静岡の野球少年たちに夢を与えたいですね。静岡でお世話になった方々に試合を見に来てもらって、活躍している姿を見せたいと思っています。



静岡大学吹奏楽団が、第72回全日本吹奏楽コンクール(大学の部)で栄えある「金賞」を受賞しました。

21回目の全日本出場で、金賞受賞は1965年の創団以来初。静岡・浜松両キャンパスから集い、限られた時間の中で技術と絆を磨いてきた部員たち。静大サウンドを全国の舞台上で響かせ、悲願の快挙を達成しました。団長の吉田厚輝さん(教育学部4年)は「一音一音丁寧に合わせていく練習を大事にした」と振り返り、「静岡、浜松の仲間がいたからこそ達成できた。支えてくださった皆さまに感謝を伝えたい」と喜びを語りました。



WEB



静岡・浜松両キャンパスから「オール静大」で練習に励んできた部員たちと音楽監督兼常任指揮者の三田村健客員教授

馬術部 全国大会で優勝



落ち着いて頑張ってくれた「グレ」に心から感謝!

全日本学生馬術大会2024の個人競技で、山本華さん(農学部4年)とグレートシール号(グレ)が見事優勝! 1カ月前に急遽決まった出場、馬の変更など直前までハブニングに見舞われたこのペア。本番では意識を集中させた落ち着いた演技で、大舞台での優勝を勝ち取りました。



Instagram

ダンス部 二つの全国大会で受賞



ダンス部は2024年度、全日本高校・大学ダンスフェスティバルで「審査員賞」、アーティストック・ムーブメント・イントヤマで「特別賞」を受賞!一年で二つの全国大会での受賞は創部以来初の快挙です。



Instagram

メンバー大募集! しずだいPRサポーター



グエン ヴィエトクオンさん (人文社会科学部) 静大をPRしましょう!

一緒に活動しませんか?

広報勉強会の企画、大学広報誌「SUCCESS」の作成など、やれること多数!少しでも興味がある方、ぜひお気軽にご相談ください。

こんなことやってます! わたしたちの活動

- ・静大フェスタのグッズ制作企画・準備
- ・キャンパスフェスタ in 静岡への参加
- ・学生フォトコンテスト応募作品の審査
- ・メンバー募集チラシ作成
- ・「Futureしずおか」取材対応



丸山桜さん (人文社会科学部)

グッズ制作ではメモ帳をデザインしました

静岡大学 広報・基金課 広報係
koho_all@adb.shizuoka.ac.jp



MAIL



WEB

理学部生物科学科 徳元研究室

私たちの研究室では、主に生殖細胞を対象とした分子レベルでの細胞分裂のメカニズムを研究しています。



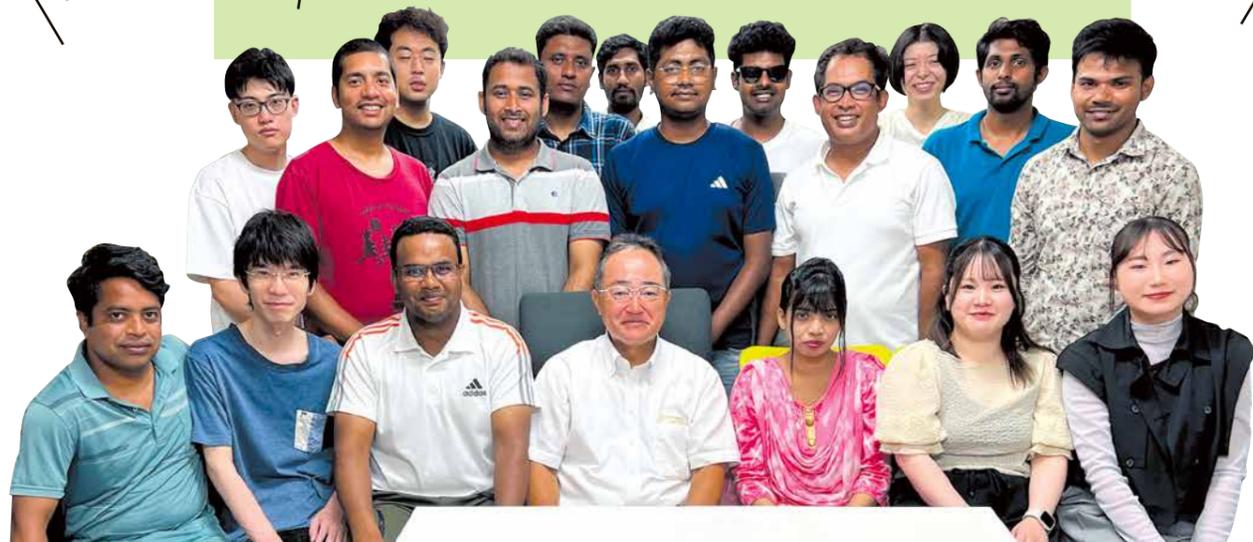
徳元 俊伸 教授

細胞分裂中に細胞内では いったい何が起きているのか？

こういう疑問を持った人は多いはず。私たちの研究室では、この疑問に答えるべく、分子レベルで何が起きているのか明らかにしようとしています。研究室には留学生も多く在籍していて、国籍関係なく協力しながら研究を進めています。

研究室で定期開催する
セミナーなどで活発に
意見交換しています。

パーティーを
開催するときは、
みんなで一緒に
盛り上がります！



静岡の自然環境が 教えてくれる！

フィールドワークで サンプル採集

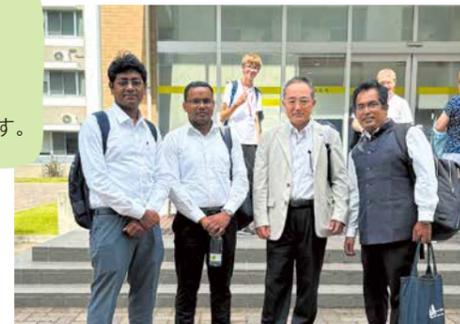
研究対象の生き物が生息する環境だからこそ得られる情報もたくさんあり、刺激を受けます。



学会にも積極的に 参加しています

研究成果を発表するだけでなく、新しい知見も積極的に取り入れています。

実験技術も身につける
ことができます！



いろいろな生き物を分子レベルで解明して、細胞生物学の発展や不妊治療などに役立つ研究を行っています！



マウス
Mus musculus

マウスを使って卵巣や精巣に発症するテラトーマ(奇形腫)という病気の原因遺伝子を探索する研究を行っています。



ゼブラフィッシュ
Danio rerio

体が透明なゼブラフィッシュを用いて、ゲノム編集による遺伝子機能解析やステロイド膜受容体の生理的機能解析の研究を行っています。



アマモ
Zostera marina

アマモは海洋生態で、海の肺とも呼ばれています。アマモを組織工学により実験室で再生し、自然に戻すことを目的として研究しています。



酵母
Pichia pastoris

主にステロイド膜受容体を対象として、酵母や大腸菌を用いて組換えタンパク質を発現させ、精製した後に機能解析を行っています。



キンギョ
Carassius auratus

ゲノム編集技術を用いて体が透けて見える透明なキンギョの作出を行っています。解剖せずに生きたまま実験の評価を行うことができるようになると考えています。

ゲノム編集によって透明金魚のさらなる透明化に成功！体内の観察がより容易に

徳元俊伸教授の研究グループにより2024年5月に発表



和金



透明金魚



pax7ゲノム編集

顕微注入も難しい金魚でゲノム編集が成功するのか、不安でしたが、学生たちの長年の努力が実り、メダカで解明された白色素細胞の形成遺伝子 pax7 が金魚でも同じ働きをすることを解明することができました。



国際交流ラウンジの友達と花見を楽しみました

ABPプログラムを通じて、幅広い知識と高度な専門性を得つつ、さまざまな国の人と交流する貴重な経験ができ、定期開催される県内企業との交流会も就職活動に役立ちました。今、海外とやりとりが多いグループでシステムエンジニアをしています。将来はシステムコンサルタントとして活躍したいと考えています。

Vol.8 将来は システムコンサルタントに

ヴ クアン ズイ(ベトナム出身)
情報学部情報科学科(2024年卒業)
2024年10月より株式会社ヤマハコーポレートサービス 勤務

ICTや数理から脳・認知に至る最先端テクノロジーを学べる上、ものづくりのまち浜松で世界を代表する企業と触れ合えると思い、静大に入学しました。大学では、県内製紙企業との共同研究で、時系列データの可視化・センサー間の相関分析を行い、深層学習モデルを活用して異常の事前予測を研究しました。また、国際交流ラウンジで多くの日本人・留学生と接する中で、コミュニケーション能力も向上しました。



母国で試験前によく行った Van Mieu文廟



アジアブリッジプログラム(ABP)は、静岡県とアジア諸国の架け橋として活躍する人材を育成するため、企業や自治体と連携して、静岡大学で学ぶ留学生を応援しています。ご支援いただいている企業の皆様への感謝を込めて、活動をご報告します。



静岡大学では、持続可能な社会の実現を目指し、社会課題に多面的・戦略的にアプローチしています。今回は、SDGsをテーマに開催した英語スピーチコンテストをご紹介します。

本取組に関するSDGsのロゴ



「より良い地域社会に向けたアクション」を英語でスピーチ ～グローバルに考え、ローカルに行動するグローバル人材を育てる～

大学教育センター英語科目部

大学教育センター英語科目部は2024年12月19日、第1回静岡大学英語スピーチコンテストを開催しました。「より良い地域社会に向けた私のアクション」をテーマに、予選を通過した7名が自身の経験を交えて5分間の英語スピーチを行いました。

会場には、学生や教職員など75名が集まり、発表者ごとに「お互いに支えあって生活している社会を私も作り上げたい」「聞き手のことを考えた良いスピーチだった」「英語をもっと勉強しようと思った」などのコメントを貼付。その数は304枚にのぼり、身近なSDGsを英語で考える、学びの多い時間となりました。開催の目的は、グローバル人材の育成と英語学習の成果披露、英語力向上です。今年も開催予定ですので、学生の皆さんぜひご参加ください!



コンテスト終了後に記念撮影



コメントを書いた付箋を貼る参加者たち



「SNSを活用し、魅力をグローバルに発信して地域活性化を」と語る
第一部門(国外滞在2年未満の部) 最優秀賞
工学部 鶴貝悠生さん



「『大丈夫?』の声掛け1つが、メンタルが苦しいときには大きなサポートになる」と語る
第二部門(国外滞在2年以上の部) 最優秀賞
グローバル共創科学部 山本エマさん



静岡大学学生 フォトコンテスト2024 受賞作品紹介

学生目線の静岡大学の魅力を広く発信することを目的に、学生フォトコンテスト2024を開催しました。たくさんの応募の中から選ばれた、受賞作品の一部をご紹介します!



その他の受賞作品は
こちらから



グランプリ

「Sunset from informatics building」

総合科学技術研究科 ARIJIT DASさん

「I am very happy; it was the first time I participated in a photography contest. This is surely one of the best photos I have taken. (とてもうれしいです; フォトコンテストに参加したのは初めてでした。この作品は、間違いなく私が撮った中で最高の写真の1枚です。)」



「飛んだ!」 工学部 I.Kさん

学長賞

「静岡大学ヒコキ部は、毎年夏に行われている鳥人間コンテストを目指し日々設計・製作・運用を行っています。写真は、'24年度機体が初めて浮上した際のもので、近年は浮上にも苦労していた弊社悲願の瞬間とその喜びが皆様にも伝わっていると思います。今年も応援よろしくお願いします!」

しずだい
PRサポーター
賞

「視線」 総合科学技術研究科 仲野 雄真さん

「よさこいの魅力を伝えられる写真を撮りたいと思い撮影しました。よさこい楽しいので、皆さん見てください!!」



広報
戦略室長
賞

「七色の空といつものキャンパス」

教育学部 松山 明日香さん

「夜遅くまで大学に残って勉強していたときに、ふと窓を覗いたら幻想的な夕日が見えたので、この瞬間をカメラに収めたいと思って撮影しました。この写真を撮影した教育学部棟へ登校するには、毎回急な坂や階段を登らなくては行けませんが、この景色を見ることができるのは、静岡キャンパスに通う人の特権だと思います。」

